

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	22
施設名	葛飾区梅田保育園
施設所在地	葛飾区立石3-26-10
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然（特に水）

<テーマの設定理由>

当園の広い園庭とプール、砂場を活かし、自然（特に水）をテーマに設定する。泥んこ遊びや水遊び等を通して、温度や形態の変化、流れ等色々な気づきがあったため、その気づきを広げたり深めたりしたいと思った。

2. 活動スケジュール

令和7年5月：テーマを決定
令和7年6月：必要物品選定、実施準備
令和7年7月中旬～活動実施
令和8年2月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子ども達が日常の中で手に取れる場所に水遊びパーツ（水路）を設置し、幼児クラスが自由に使い遊べるようにする。（要見守り）
長さがあるもの、常設することが難しいものに関しては職員に声を掛ければ使用出来るようにする。

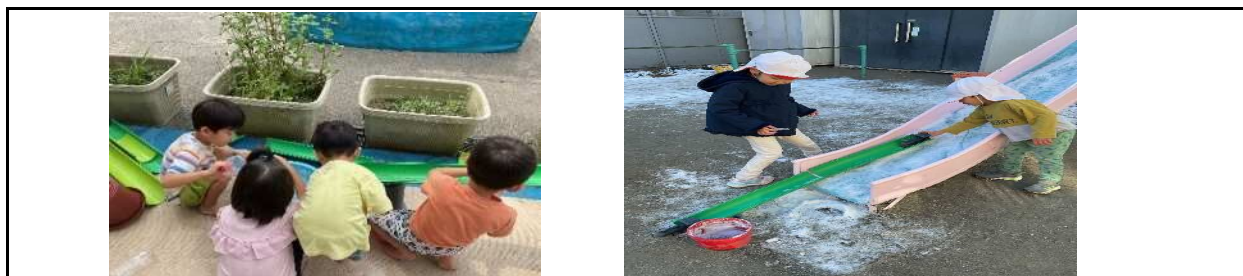
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

令和7年7月下旬より水遊びパーツを幼児クラスに出してみる。どのように使うかは特に保育者から示さず、子ども達に任せてみる。短いパーツ同士をジグザグに組み立て、ビー玉を転がしてみたり、パーツを長く繋げて水や砂を流してみたりする姿が見られた。7月～9月は幼児クラスのプール、水遊びで使用していった。秋以降は砂場遊びや室内遊びの中にも取り入れていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

長いパーツと短いパーツを組み合わせ複雑なコースを作り上げたり、友だちと協力してコースを考え組んだり、ペットボトル等を活用し、パーツに傾斜を付け、水や砂を流しやすくする等工夫が見られていった。コースにビー玉やアヒルの人形を流していく中で、傾斜を付けると流れが速くなることを発見した子ども達の姿も見られた。砂場の段差等、傾斜を付けられそうな所を探してコースを作り、水や砂を流していく姿が多くなっていった。3歳児クラスでは、コース作りの他にパーツを望遠鏡に見立て覗いてみる等の見立て遊びで盛り上がる姿もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

使い方を特に示さず子ども達がどのように遊び始めるか興味深く傍で見守っていくことにしたが、手に取ると迷うことなく水や玩具を流し始めたり、傾斜の存在に気づき工夫を加えたり、友だちと協力したりすることで遊びがより楽しく広がっていくことを感じている子ども達の姿を見ることが出来た。